

※文字の大きさは Meiryō UI /12 ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。
 ※具体的に示したい図、写真、表、グラフなどは、(写真1) (表1) などと文中に記載し、右ページに(写真1) (表1) などと表記の上、貼り付けてください。
 ※文章と図等を組み合わせながら作成することも可能です。各項目の枠の上下幅は、変更可能です。
 ※いずれの場合も、必ず A3 片面 1 枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは 5 MB 以下としてください。

(様式 1)

<エントリーシート> ※事務局記入欄 No. : C - 2	部門 校内研修	学校名・氏名 福井県 福井市足羽中学校
	活動名 家庭・地域の教育力向上 ～『家庭教育スタンダード』の作成～ ※どのような課題をどのような手法で解決したのか、わかりやすく伝える案件名を記入してください。	

課題の設定： ※活動を行う前に、課題や目標をどのように設定しましたか？視点などを含めて記載してください。

全国学力・学習状況調査および福井県学力調査の結果によると、本校の正答率は、下回った設問が多く、学校以外で学習時間・土日の学習時間が十分確保できていないことや読んだ本の冊数、ニュースを見る頻度、夢や目標をもつ生徒が少ないなど問題点がある。また、宿題を学校で済ませてしまおうとする傾向があり、向上心が低いという指摘があった。授業では自ら発表する生徒は少なく、思考力や判断力を必要とする内容にはすぐに諦めてしまうことが多い。さらに、本校は、25名(5.82%)を超える生徒が、登校渋りや別室学習、をしている。その多くが、「授業についていけない」「宿題が出せない」などの理由を挙げている。

保護者にとって、9 年を見通したスタンダードによる指標は、発達段階に合わせた指導の目安になる。基本的な生活習慣の定着は、家庭の教育力の向上につながる。家庭においてスタンダードの活用は子どもたちの行動を評価することになり児童生徒のちへの意欲が向上する。SNS による友人関係のトラブルやゲーム・スマホ依存などの問題を回避すること(情報環境の整備)は、好ましい学習環境をつくることになる。

方針・計画： ※課題を解決するために仮説を立てて、活動内容を組み立てたのか、記載してください。

義務教育 9 年を見通した「ASUWA 家庭教育スタンダード」(図 1) を作成することにより、家庭・地域との連携が深まる。それぞれの立場での役割を理解し責任を持つことにより、教育力が高まり学力を向上させることができるのではないかと、という仮説を立て、実態や要望などを考慮して、校区内全体で連携し歩調合わせ、生活習慣と学習習慣を身につけ、健やかで社会性を身につけた子どもを育てることを目指した。

活動内容： ※方針・計画に基づいてどのような活動を行ったか、また、複数の活動を展開した場合はその位置づけや関連性を記載してください

足羽中学校校区連絡会において、スタンダードを作成する目的で家庭教育部会を創設した。第 1 回部会(校下小中の学校代表 1 名と保護者代表 2 名)では、保護者代表から子育ての現状や課題を中心に、現状把握を行い、「家庭教育/家庭生活/情報モラル」の 3 つの指標をもとにブレインストーミングによって、意見を付箋紙に書き込んだ。さらに、KJ 法を用い、模造紙に縦軸を発達段階(低学年/中学年/高学年/中学校)横軸として表を作り、原案を作成した。次に、校下小中合同研修会において、教員の立場で原案を元に意見を出し合い、素案(図 2)にまとめた。第 2 回部会では、素案を整理しスタンダードを完成させた。また、スタンダードの周知方法、開始時期、検証方法など今後の取り組みについて確認した。後期の始業式において、全家庭に、スタンダードと指標の目的とねらいを書いた印刷物を配布し、学校だよりや HP に掲載し、理解と協力を求めた。10 月下旬の教育ウィークを重点取組期間として、実態調査を実施した。取組状況は、学校ごと、発達段階ごとにグラフ化し、保護者の意見はすべて集約した。第 3 回部会では、取組状況と意見の分析・検証した。取組状況については概ね良好であったが、子どもたちの地域への関わりが不十分であることが指摘された。意見では、「我が家のルール決めのかっかけとなった。」など肯定的な意見が大半だった。改善を求める意見としては、「SNS の使用早期化につながらないような工夫が欲しい」などの意見があった。部会後、取組状況のグラフと意見や感想を集約した印刷物(図 3)ものを配布した。第 4 回部会では、反省と今後の課題について話し合い、次年度の取り組み方や改訂について話し合った。

活動の成果： ※課題や目標に対し、どんな影響、変化あったか、職員や参加者の声など客観的な情報・データとともに記入して下さい。

スタンダードを作ったことは、学校からの押しつけではなく家庭を含めた地域ぐるみで児童生徒を育てていく意

識を高める第一歩になった。導入前の 27 年 7 月から年 2 回実施している学校評価の学習意欲、学習習慣(図 4)に関する設問で生徒の意識変化についてグラフ化した。いずれ設問も割合が上昇傾向にあり、効果が上がっている。特に、学習意欲に関しては上昇傾向が強く、予習復習や課題提出などの学習習慣の高まりがその裏付けられている。導入当初は、不登校生徒は横ばい状態が続いたが、一昨年度より大幅に減少した。(図 5)不登校の理由の大半が、学力不振であり、家庭での学習習慣の定着と生活習慣の確立が不登校の減少につながったと考えられる。

アピールポイント(アイディアや工夫)： ※3~5 つ程度の箇条書きしてください

- ・「学力が高くないこと」=「家庭に問題がある」にならないように、家族や地域住民の子育てに対する悩みを学校側と一緒に考えていくことからスタートし、協同して作成した。
- ・校区内小中学校が共通の標準的な指導の目安を示すことで家族や地域住民が生活・学習について、共通理解をもって指導しやすくなった。
- ・学校、家庭、地域の相互の交流が図られ、三者で子どもたちを育てていくという意識が向上した。
- ・「生徒指導の重視」=「教育力の向上」と考え、地域行事への参加やあいさつ、お手伝い、さらに情報モラルの項目を取り入れた。

<写真、図表添付欄> 図 1 図 2 図 3

図 1: ASUWA 家庭教育スタンダードの作成プロセスを示すフローチャート。各学年(低学年、中学年、高学年)と中学校の目標を明確にし、家庭・学校・地域が連携して取り組むことを目指している。

図 2: 家庭教育スタンダードの素案(草案)を示す表。家庭学習、家庭生活、情報モラルの3つの指標を、各学年・中学校の学習目標と照らし合わせて設定している。

図 3: 情報モラルに関する意識調査の結果を示す3つの円グラフ。各学年・中学校の生徒が、インターネットの利用、SNSの利用、個人情報の取り扱いについてどのように意識しているかを比較している。

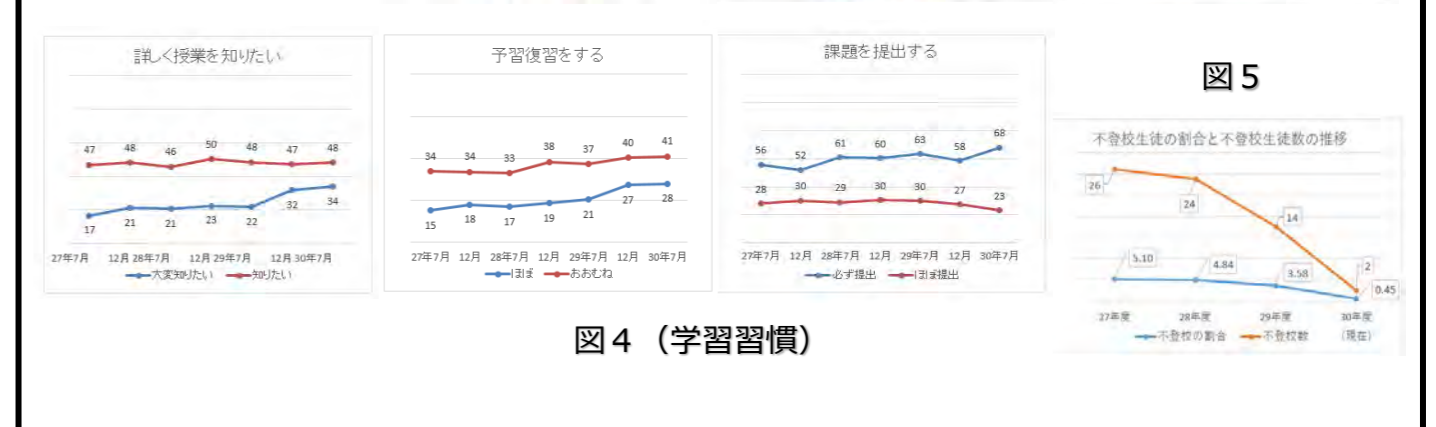
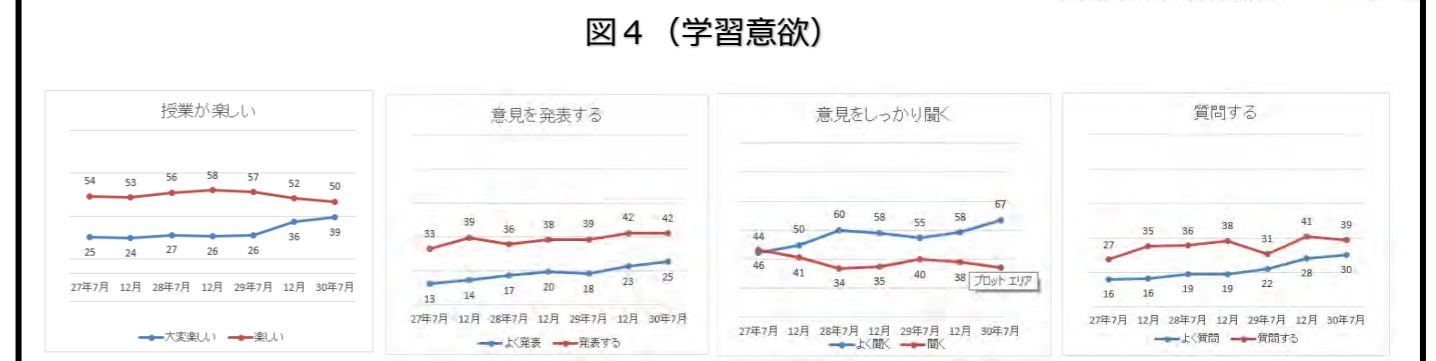


図 4 (学習習慣)